



4月29日、爽やかな晴天の下、錦帯橋周辺で「第36回錦帯橋まつり」が開催されました。南条踊や奴道中、大名行列など、戸時代さながらの歴史絵巻が繰り広げられ、その風情たっぷりの風景に約4万人の観光客などが魅了されました。

あでやかな着物姿の女性たちによる時代着物行列を先頭に、県指定無形民俗文化財「南条踊」、地元の3つの団体が継承する勇壮な「奴道中」、福田良彦市長が城主を務めた「大名行

歴史絵巻 盛大に開催

市政 PICK-UP

第36回 錦帯橋まつり

列」など、総勢約250人が次々に錦帯橋を練り歩き、観光客から大きな歓声に応えていました。

また河川敷周辺では、岩国藩鉄砲隊保存会による火縄銃の演武や岩国太鼓などが披露されました。他にも、地元産のレンコン入りの岩国海軍飛行艇カレーをはじめとするたくさんの出店でにぎわうなど、春の岩国を代表する、盛大な祭りとなりました。

問観光振興課 ☎ 090-5116



地域の力になりたい

4月12日、平成25年度緑のふるさと協力隊員として本郷町に派遣された藤澤こずえさんが、福田良彦市長を表敬訪問しました。

緑のふるさと協力隊事業は、山村と都市の相互交流・地域活性化などを目的に、豊かな自然環境や歴史・文化などに恵まれた地域で生活することや地域社会へ貢献することを希望する、意欲ある若者を中山間地域に派遣するものです。

藤澤さんは山形県出身で、高



▲これから意気込みを語る藤澤さん



▲地域の活動を手伝う藤澤さん

■市民協働推進課 ☎ 5012

緑のふるさと協力隊

校時代は登山部に所属し、大学時代はキャンプカウンセラーとして子どもたちにテントの設営方法などを指導するボランティア活動を体験し「自然豊かな地域で暮らしてみたい」と思いから、協力隊に応募されました。

これから藤澤さんは本郷町で、らかん高原牧場や特産品加工施設「山代の里」での手伝いやボランティア活動への参加、地域イベントの企画・運営に携わるなど、活躍が期待されています。

4月16日、岩国市は麻里布町に「カスタマーセンター」を新設する、流通システム開発販売会社「株式会社ビジコム」と、進出協定を締結しました。

市役所で行われた進出協定書調印式では、中馬浩社長と福田良彦市長（県商工労働部長）が協定書に署名し、握手を交わしました。ビジコムは、商店などの顧客や在庫、物流管理ができるシステムを販売しており、カスタマ



▲協定書に署名する福田良彦市長(右)



▲左から、握手をする中馬社長、木村部長
福田市長

協定書調印式

センターは7月中旬操業予定で、地元在住者を中心に当面8人程度が雇用される予定です。

中馬社長は「空港が開港した出身地の岩国で事業を展開しようと決めた。地元の地域活性化にも協力していきたい」と述べ、福田市長は「岩国に進出する決め手が空港開港ということで、空港が地域経済の活性化につながることが大きな喜びです」と感謝の言葉を述べました。

■商工振興課 ☎ 5110